

# 「～てよこす」の意味・用法

ぞんざいな印象の正体

井上直美

## ◆要旨

**本**稿は、広義の授受を表し、視点性を有する「～てよこす」の使用実態を調査し、意味・用法およびぞんざいな印象の正体について分析するものである。

コーパスを用いた調査・分析を踏まえ、本稿では次の3つを主張する。①「～てよこす」のぞんざいな印象は、本動詞「よこす」の「受け手の意志性を表さず、送り手の意志性のみを表す」という語彙的特性によるものである。②「～てよこす」は、「話し手＝受け手」のことが多く、評価的な意味を帯びる。特に「行為の方向」用法では専ら非恩恵を表す。③中立的な印象になることがあるのは、「2者間の距離」を表すために用いる「到着」用法である。ぞんざいな印象はなく「中立的な古い言い方」になる。

## ◆キーワード

～てよこす、広義の授受表現、視点、評価の意味、非恩恵（不満）

## ◆ABSTRACT

This paper analyzes the meaning and usage of “*-te yokosu*” and the reasons for its unpleasant impression. The main claims are: (1) The unpleasant impression of “*-te yokosu*” is due to the lexical feature of the verb “*yokosu*” which does not express the will of the receiver, but the will of the speaker. (2) The expression “*-te yokosu*” is basically used when the speaker is the receiver. Therefore, it takes on an evaluative meaning (It’s one-sided). Particularly, it exclusively expresses “non-beneficial” in the “direction of action” usage. (3) The “arrival” usage of “*-te yokosu*” expresses “distance between the sender and the receiver.” In such a case, there is no unpleasant impression, but rather a “neutral old speech style.”

## ◆KEY WORDS

“*-te yokosu*,” giving and receiving expression in a broad sense, viewpoint, evaluation meaning, non-beneficial (dissatisfaction)

## The Meaning and Usage of “*-te yokosu*” Reasons for Its Unpleasant Impression

NAOMI INOUE

# 1 はじめに

本稿は、動詞のテ形に「よこす（寄越す）」が後接した「～てよこす（～て寄越す）」（以下、表記は「～てよこす」に統一）について論じる。次の（1）、（2）のようなものである。

- （1）駅前で、客引きがチラシを渡してよこした。 （作例）  
（2）息子が今年の夏は帰らないって言ってよこしたのよ。 （作例）

「～てよこす」は、上級レベルに達した日本語学習者であっても、次のような疑問点・困難点が予想されるため、本稿はこの表現の分析に取り組む。

1つ目は、「～てよこす」は広義の授受を表し、そして視点性を有することから「～てくれる」や「～てくる」と類似する点についてである。（3）は、同一事態に対して3種の表現が使用可能になる例である。

- （3）駅前で、店員がチラシを渡してよこした／きた／くれた。 （作例）

授受を表す表現や、視点性を有する表現は、日本語学習者にとって理解に困難が伴いやすいことが知られており、（3）のように同一場面で使える場合の類義表現との異同や、また、どのような条件で置き換え可能かという点を明らかにすることが1つ目の課題である。

もう1つは、ぞんざいな（粗野な）印象についてである。「～てよこす」は冒頭（1）のようにぞんざいな印象になる場合と、（2）のように少し古い言い方とも読める場合とがある。また、女性による使用も見られ、一律に粗野な印象になるとは限らない。この理由を明らかにすることを2つ目の課題とする。

本稿の構成は以下の通りである。2節で先行研究を概観し、3節で研究方法について述べる。4節では調査結果と分類別の用例を示し、5節で先に本動詞「よこす」の意味・用法を示す。それを踏まえ、6節では「～てくれる」や「～てくる」との異同、および、ぞんざいな印象についての分析を中心に、「～て

よこす」の意味・用法について述べる。最後に7節でまとめを行う。

## 2 先行研究

本研究に深く関わるものとして、日高（1997,2007）、李（2010）がある。日高（1997）は、方言の授与動詞の体系を扱う論考だが、（4）のように標準語（および西部方言）についても触れており、その意味用法をA、B、Cの3つに分類した上で、本動詞「よこす」は、意味用法のB）に該当するとしている。

### （4）非敬語形の授与動詞の意味用法【標準語・（大部分の）西部方言】

意味用法	受け手の人格性	所有権移動	遠心的方向	求心的方向
A)	前提とする	含意する	やる	くれる
B)		含意しない	やる	<b>よこす</b>
C)	前提としない			やる

（日高1997:111（9）、「よこす」の太字は筆者による）

また、その後の日高（2007）には、本動詞「よこす」および「～てよこす」が次のように説明されている。

標準語の「よこす」は、求心性を帯びた動詞であり、遠心的方向用法では用いられない。「くれる」との意味的な違いは、所有権の移動が意味の中心ではないことである。「よこす」は、与え手と受け手の間に距離があり、その間を物が移動してくるという意味合いが強い。あるいは、直接手から手へと物が移動する場合であっても、所有権の移動やそれに伴う恩恵性といったものとは無関係である。また、本動詞の意味から離れた補助動詞の用法はない。動詞のテ形に接続して用いられることはあるが、それも物の移動を表す本来的な意味が残っている。（日高2007:101）

これらは、大変示唆に富むものである。しかし、日高（2007）が触れている「直接手から手へと物が移動する場合」に該当し、それでいて、実質的に所有

権が移動することを表す (5) のような例も見られる。

(5) (目の前にいる銀行強盗が) 早く金をよこせ。 (作例)

そのため、本動詞「よこす」に関しては、2者間の距離が前提、かつ、所有権移動を含意しないという指摘の内実を探る必要があると考えられる。

「～てよこす」に関しては、他にも李 (2010) に文法化についての考察がある。「～てよこす」は、(6) に見られるように、抽象的なものの授受を表すこと、そして、格支配が前項動詞に従っているのか「よこす」によるのかが不明であること、前項動詞と「よこす」が時間的継起関係を成していないことを挙げ、「～てよこす」に文法化の初期段階の様相が見られるとしている。

(6) 黒が炊事室の建物の陰からわずかに手をだしてみせ、大丈夫だ、と  
らせてよこした。 (李2010: 59 (32)、囲み・下線原文通り)

このように、先行研究において「～てよこす」は本動詞の意味から離れた用法はないとされる一方で、文法化の初期段階にあるとするものもある。両者とも、使用実態を調査、分析したものではないため、さらなる検証の余地があると思われる。

### 3 研究方法

先行研究を踏まえ、本稿では実例調査と用例観察による探索型アプローチで分析を行う。コーパスには国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)を選定し、全てのジャンルを対象に短単位検索で用例を抽出した。なお、「～てよこす」の意味・用法を記述するためには、本動詞「よこす」の分析が不可欠だと考え、本動詞「よこす」についても検索を行った<sup>[註1]</sup>。

その結果、「～てよこす」は、218件が抽出され、目視でデータを確認し対象外の「よこすか (横須賀)」を含むものなど5例を除く213例を考察対象とした。また、本動詞「よこす」は788件を抽出、この中から「～てよこす」を除

外し、「～てよこす」同様に対象外となる用例を除く556例を考察対象とした。

## 4 調査項目と調査結果

### 4.1 調査項目

先行研究で指摘されていた、2者間の距離的關係、所有権移動に注目し、A「移動対象物と2者間の距離的關係」、B「使用形式」、C「～てよこす」の前置動詞の3つを調査する。

### 4.2 A「移動対象物と2者間の距離的關係」

BCCWJの用例を目視で確認し、移動対象物の種類を5つ(①派遣物、②情報、③モノ、④表情、⑤行為)に分けた。移動対象物とは、「[送り手]が[受け手(側)]に[移動対象物]を(と)Vてよこす/よこす」の[移動対象物]から読み取った。加えて、2者間の距離的關係(別空間、同一空間、不問)も調査した。以下、「～てよこす」、本動詞「よこす」の順に分類別の用例を示す。用例には出典、ID番号、開始位置を付した。なお、下線、波線は筆者によるもので、波線は[移動対象物]関連部分を示す。

#### 4.2.1 「～てよこす」の分類

①派遣物は、送り手が命じることにより、人物や乗り物が受け手側に届くことを表す。人物では、「～の者」「使者」、乗り物では「車」、「タクシー」、「迎え」などが出現している。①派遣物では2者間の距離的關係は別空間になる。

(7) 数年前に、ドイツ政府が日本に派遣してよこした若くて有能なドイツ語教師が、着任後しばらくして私にこう語った。

(『ドイツと日本』LBi3\_00013, 370)

②情報は、送り手の行為により、受け手側に情報が届くことを表す。②情報

では2者間の距離的關係は別空間になる。

(8) 母は毎日電話をかけてよこすのだ。(『きらきらひかる』LBi9\_00218, 16700)

③モノは、送り手の行為により、受け手側にモノ(抽象物も含む)が移動することを表す。多くは、具体物の物理的な移動を表し、所有権移動を含意しない(授与、貸与といった目的は問わない)。2者間の距離的關係が同一空間の場合と別空間の両方が見られる。(9)は別空間、(10)は同一空間である。

(9) そのたばこは南門の金貸しの息子が香港から送ってよこしたものだ。

(『思い出のウクライナ』PB29\_00109, 114660)

(10) 彼女は免許証をながめたのち、おれの膝にぼんと投げてよこした。

(『銃、ときどき音楽』LBk9\_00176, 38740)

しかし、5例ではあるが、③モノには、「権利対価」の移動を表す用例も見られる。(11)、(12)のように「権利対価」の移動は、譲渡や支払いであり、所有権移動を含意するため分けて示す。(12)の「小銭」は具体物だが、勝負事に伴う支払いである。また、(11)は別空間、(12)は同一空間である。

(11) たまに手紙がくると、一緒に暮らすのはお断りだが、生活費だけは送ってよこせという身勝手な言い分だけを書き連ねてくるので、妻への愛情もすっかり冷めてしまっていた。

(『パリの王様たち』LBm9\_00218, 40340)

(12) (中略)これはあなたの勝ちだ」彼はテーブルの小銭を私に押しよこした。

(『多様な豊かさ』LBb3\_00024, 36840)

④表情は、送り手が受け手に視線や微笑などの表情を向けることを表す。④表情では、2者間の距離的關係が同一空間になる。

(13)「さて」と、老先生は顔を向け、眼鏡のレンズの上のほうから視線を送

って寄越した。

『吉行淳之介全集』LBm9\_00273, 26960)

⑤行為は、送り手が合図や挨拶のための行為を受け手に向けて行うことを表す。⑤行為では2者間の距離的關係が同一空間になる。

- (14) 娘は、かまうなどでも言いたげにウィンクをしてよこすが、そうもい  
かない。 (『風の祭礼』LBo9\_00058, 59670)

#### 4.2.2 本動詞「よこす」の分類

「～てよこす」同様に本動詞「よこす」の分類を示す。5つの分類は重なるため、本動詞「よこす」の特徴を中心に見ていく。

まず、①派遣物と②情報を示す。(15)は①派遣物、(16)は②情報の用例である。本動詞「よこす」も①派遣物、②情報では距離的關係が別空間になる。

- (15) 彼は何か用があったら、人を寄越すように。すぐに来るから、と念を  
押したのだった。 (『月と六ペンス』LBj9\_00043, 75130)
- (16) 三日後の昼まえ、オフィスで書類をつくる明石のもとへまゆみが電話  
をよこした。 (『情事の会議室』PB19\_00313, 340)

続いて、③モノを示す。本動詞「よこす」では、具体物の物理的な移動ばかりでなく、「権利対価」の移動を表す用例が多数見られる。(17)は、抽象物である「夏休み」の取得、(18)は「小遣い」の受領を主張する。この場合、(19)や(20)の物理的移動に主眼を置くものとは異なり、所有権の移動(取得、受領)が目的で、2者間の距離的關係は問題にされない。そのため、距離的關係を「不問」とした。なお、(19)は同一空間、(20)は別空間の例である。

- (17) 夏休みの宿題を出すなら夏休みをまずよこせ！(涙)  
(『Yahoo!ブログ』OY14\_17430, 2030)
- (18) 親はわしを生んだ以上、小遣いぐらいよこすのあたりまえだ。  
(『「文芸春秋」にみる昭和史』OB3X\_00004, 106890)

(19) 「さあ、包丁は危ないから、こっちに寄こしなさい。」

(『灰色の仮面』LBg9\_00160, 23090)

(20) これで部品取扱いの業者に聞いたところ「ああ、あれね。よく出るのよ。対策品が出てるから」と、言って部品をよこしたらしい。なるほど到着した部品には(略) (『Yahoo! ブログ』OY15\_15619, 9600)

最後に④表情、⑤行為を示す。(21)は④表情、(22)は⑤行為の用例である。これらは、「～てよこす」同様、距離的關係が同一空間になる。

(21) さあ、最後のチャンスだ。そう思って彼は待った。しかし彼女がよこしたのは毒々しい笑顔だった。 (『骨ん中』LB9\_00212, 54040)

(22) ぼくを見るといつも、どうもと低く言って軽い会釈をよこす。 (『日の湖月の森』LB9\_00173, 40920)

#### 4.2.3 「～てよこす」・本動詞「よこす」の分類別使用分布

A「移動対象物の種類と距離的關係」のまとめとして、それぞれの使用分布を示す。表1が「～てよこす」、表2が本動詞「よこす」のものである。

表1 「～てよこす」の使用分布

分類 \ 距離	別空間	同一空間	頻度合計
①派遺物	16	—	16
②情報	67	—	67
③モノ	44	61	105
(権利対価)	(3)	(2)	(5)
④表情	—	6	6
⑤行為	—	19	19
合計	127	86	213
割合	60%	40%	100%

表2 本動詞「よこす」の使用分布

分類 \ 距離	別空間	同一空間	その他(不問)	頻度合計
①派遺物	120	—	—	120
②情報	211	—	—	211
③モノ	4	133	68	205
(権利対価)	(—)	(18)	(68)	(86)
④表情	—	11	—	11
⑤行為	—	9	—	9
合計	335	153	68	556
割合	60%	28%	12%	100%

両者に共通で見られる特徴は、別空間のやりとりを表す用例の割合が6割を占めていること、特に②情報の出現頻度が高いことである。



両者の傾向が大きく異なるのは、③モノである。「～てよこす」では、多くの場合、具体物の物理的な移動に用いられ、権利対価の移動は5例（約5%）しか見られない。これに対し、本動詞「よこす」では、権利対価の移動が86例（約42%）含まれ、距離的關係が「不問」となる用例が多く見られた。

### 4.3 B 「使用される形式」の比較

次に、使用される形式を比較する。まず、「～てよこす」は文末で叙述的に用いられ、既に実現した事態について述べることが多く、「命令形」の使用は3例（1.4%）のみであった。これに対し、本動詞「よこす」には「命令形」が27%と多数出現している。その詳細をまとめたものが表3である。

表3 本動詞「よこす」の要求を表す形式

形式 分類	～をよこせ ～をよこしなさい	～をよこしてくれ ～をよこしてください	全ての形式 (総数)
①派遣物	12 (10%)	13 (11%)	120
②情報	10 (5%)	2 (0.9%)	211
③モノ	128 (62%)	0 (0%)	205
(権利対価)	68 (79%)	0 (0%)	(86)
④表情	0 (0%)	0 (0%)	11
⑤行為	0 (0%)	0 (0%)	9
合計	150 (27%)	15 (2.6%)	556 (100%)

本動詞「よこす」は、③モノの受け渡しに「よこせ」や「よこしなさい」という命令を表す形式で用いられることが多いことがわかる。そのうちの「権利対価」の要求において、特に命令形の使用率が高い。③モノは、表2で見たように、送り手と受け手の距離的關係が「同一空間」または「不問」の場合がほとんどである。言い換えれば、2者間の距離が前提ではない「よこす」において命令形が多く用いられると言える。反対に2者間の距離が前提の①派遣物、②情報のタイプでは、「よこせ、よこしなさい」以外に、依頼の形式「～てくれ」「～てください」の使用も見られる。分類により使用形式の傾向が異なることから、表す意味も異なることが推察される。

## 4.4 C 「～てよこす」の前接動詞

表4は「～てよこす」の前接動詞を集計したものである。「～てよこす」に前接する動詞には偏りが見られ、10位までの動詞で約8割を占める。相手や着点を表すニ格名詞句が生起する動詞が多く、特に「送る」は20%以上を占めている。全体として、別空間にいる相手への情報伝達に関する動詞が多い（〈手紙を〉送る、〈手紙を〉書く、〈電話を〉かける、言う、知らせる）。反対に、2位に「投げる」がランクインしているように、同一空間にいる相手への受け渡し方法を表す「投げる」、「放る」、「押す」、のような動詞も見られる。

表4 「～てよこす」の前接動詞（上位10位まで 総数213・異なり語数49）

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	9位	10位	10位 までの 合計
動詞	送る	投げる	書く	かける	言う	返す	知らせる 渡す	放る (抛る)	押す 戻す つける	
頻度	50	32	20	16	14	10	各6	5	各3	168
割合	23.5%	15.0%	9.4%	7.5%	6.6%	4.7%	2.8%	2.3%	1.4%	78.9%

## 5 本動詞「よこす」の意味・用法

4節の調査結果を踏まえ、先に本動詞「よこす」について分析する。

### 5.1 本動詞「よこす」の語彙的特徴

調査の結果、本動詞「よこす」は、③モノにおいて命令形が頻出することがわかった。その理由は、本動詞「よこす」の語彙的性質にあると考えられる。

本稿は、「よこす」の語彙的性質について、佐藤（1993）を援用し、記述する。佐藤（1993）は「教える・教わる」のように格フレームの構文的対応があるかを基準に、三項動詞を「与格対応」、「準与格対応」、「非与格対応」の3つに分け、動詞の意志性の違いについて述べている。そして、(23)に示すa)の与格対応の構文が叙述する事態は、移動物の送り手と受け手の2重の意志性によって支えられていることを指摘している（+は意志性が必ずある、…は意志性を含意

していないことを表すと説明されている)。

この佐藤 (1993) の三項動詞の与格対応の条件を援用すると、視点制約の違いはあるものの、「よこす」と「くれる」の意志性も (24) のように表せる。

(23)	送り手の意志性	受け手の意志性	動詞の例
a)	+	+	教える・教わる「与格対応」 やる・もらう「準与格対応」
b)	+	…	伝える、贈る「非与格対応」
c)	…	+	奪う、学ぶ「非与格対応」

(佐藤 1993:5 (20)、右側の動詞の例は筆者による)

(24)	送り手の意志性	受け手の意志性	
a)	+	+	くれる・もらう
b)	+	…	よこす

このように対応する動詞を持ち、「二重の意志性」(佐藤 1993) を有する「くれる」に対し、「よこす」は送り手の意志のみを表すのである。

## 5.2 本動詞「よこす」の用法

5.1 で示した語彙的特性を踏まえ、本動詞「よこす」の3つの用法を示す。

1つ目はデータの6割を占め主用法だと考えられる「到着」用法である。これは、「別空間にいる送り手の意志によって受け手側に移動対象物が届けられること」(分類①派遣物、②情報、③モノ)を表す。

2つ目は距離的關係が別空間ではない「受渡」用法(分類③モノ)である。この用法は、「(受取りを前提として)送り手の意志で受け手側に移動対象物が差し出されること」を表す。そのため、モノの受取りに「よこす」を用いると、一方的である、あるいは、こちらは望んでいないといった不遜な態度が表される。また、モノの要求に「よこす」を用いると、依頼するのとは違って、差し出すのが当然だという態度が表される。特に「権利対価」では、所有権移動を含意するので横柄な印象となる。このように、受渡用法では受け手の評価的意味を

含意するため、ぞんざいな（不遜／横柄な）印象が生じる。また、女性には用いられにくく<sup>[註2]</sup>、命令形との親和性が高いことも特徴である。

3つ目は同一空間の「方向」用法である。「送り手の意志で視線や表情、行為が受け手の方向に向けられること」（分類④表情、⑤行為）を表す。

以上をまとめると、「到着」、「方向」用法の事態は一方向だと言えるが、「受渡」用法は受取り前提の双方向の事態であるため、評価的な意味が生じるのである。いずれも「送り手の意志のみを表す」という語彙的特性が通底している。

## 6 「～てよこす」の意味・用法

本動詞「よこす」の意味・用法を踏まえ、「～てよこす」の分析を行う。

### 6.1 「～てくる」「～てくれる」との置き換え

まず、2者間の距離の関係を基準に、別空間タイプと、同一空間タイプに分け、さらに、同一空間タイプでは「～てよこす」に前接する動詞の種類を「動詞 i : 相手／着点のニ格を取らず、移動対象物が受け手側に位置変化する動詞」と「動詞 ii : 相手／着点のニ格を取り、移動対象物が受け手側に位置変化する動詞」の2つに分けて分析する。先に、同一空間のタイプから見ていく。

動詞 i には「投げる」「放る」「押す」などがあり、これらが前接すると、同一空間での「受渡の方法」を表す。また、(25) のように「～てくる」、「～てくれる」に置き換えられたとしても、同じ事態は表せない。「投げてよこす」は、タオルが受け手に届くことを含意するが、「投げてきた」や「投げてくれた」では、タオルの落下位置は不明である。このように、「～てよこす」は届いたこと、つまり、着点を確定させる役割を果たしていると言える。ただし、「投げる」という方法で渡されたことを受け手が批判的に述べているとも読める。

(25) (ボクシングの場面で) 彼はリングの外からタオルを (投げてよこした／  
投げてきた／投げてくれた)。 (作例)

動詞 ii には、対面する受け手を前提とした「渡す」「返す」「戻す」などがあ

り、これらが前接すると、前接動詞だけで移動対象物の着点が決まる。(26)では、「～てくる」、「～てくれる」に置き換え可能なことがわかる。このように、動詞iiが前接すると、「～てよこす」は「行為の求心的方向」を表す役割を果たす。3者が異なるのは話し手(受け手)の態度で、(26)の「～てよこす」は、欲しくもないのに渡されたという評価の意味、つまり、非恩恵<sup>[註3]</sup>を表す。

(26) 駅前で、店員がチラシを渡して(よこした/きた/くれた)。

非恩恵 中立 恩恵 (3) 改変

次の別空間タイプでは、情報伝達を表す「言う」「知らせる」「電話をかける」「手紙を書く」や、送付を表す「送る」などが用いられる。(27)の「～てよこす」の場合、離れた場所から野菜が「到着」という中立的な読みと、田舎の父が勝手に送ってきたという評価的意味を含意する「行為の方向」としての読みが可能であり、どちらなのかは、前後の文脈から読み取られる。

(27) 田舎の父が野菜を送って(よこした/きた/くれた)。

非恩恵or中立 中立 恩恵 (作例)

これと同様に、情報の伝達を表す動詞が用いられ、引用句で伝達内容が示された場合には、(28)のように、文脈により「(伝達内容) 到着」、「行為の方向」のどちらとも読める。ただし、(29)のように、移動対象物(伝達内容)が引用句等で示されないと、「～てよこす」は専ら「行為の方向」の役割を担う。

(28) 「息子が今年の夏は帰らないって言って(よこした/きた/くれた)のよ。」  
非恩恵or中立 中立 恩恵

(29) 母は毎日電話をかけて(よこす/くる/くれる)のだ。

非恩恵 中立 恩恵

((28)、(29)は(2)、(8)の改変)

最後に、話し手の視点について補足する。「～てよこす」は、「受け手=話し

手」、つまり「受け手視点」で用いられるのが基本である。しかし、小説の地の文など、観察者視点で用いられることもある。その場合は、(30)のように「離れたところから届くこと」を中立的に表す。これは、距離を前提とした「到着用法」で、やや古い言い方という印象になる<sup>[註4]</sup>。

- (30) この手紙に対し、良子がまたすぐ返事を書き、ふたりの間で密度の濃い文通がはじまった。療養中で時間があつたせいもあるだろうが、田原は筆まめで、女性のようなきれいな文字で書いた手紙を頻りに送ってよこした。  
(『凍れる瞳』LB9\_00080, 45870)

## 6.2 「～てよこす」の用法とぞんざいな印象

以上を踏まえ、「～てよこす」の用法と評価的意味の関係を表5に示す。

表5 「～てよこす」の用法と評価的意味

用法	距離的關係	別空間タイプ	同一空間タイプ 動詞 i	同一空間タイプ 動詞 ii
		言う・知らせる／送る	投げる・押す	渡す・返す・戻す
到着（距離）	◇ (27)、(28)、(30)	—	—	—
受渡（着点）	—	—	○ (25)	—
行為の方向（非恩恵）	◎ (27)、(28)、(29)	—	—	◎ (26)

(◇中立 ○非恩恵になりやすい ◎非恩恵)

「～てよこす」は、送り手の行為によって、受け手側に移動対象物が届けられることを表す。受け手視点で用いると、「よこす」の語彙的特性により、多くが評価的意味（一方的だ）を含意する。それが非恩恵（迷惑・不満）となって表され、ぞんざいな印象が生じる。特に「行為の方向」では、求心的方向を表す「～てくる」や「～てくれる」との相対関係から専ら非恩恵を表す。「受渡」では、前接動詞だけでは表せない対象物の着点を表す役割を担うが、受渡方法への不満（非恩恵）を表すようにも読める。別空間タイプの「到着」だけは、評価的意味を帯びない。ぞんざいな印象はなく「中立的な古い言い方」になる。

## 7 おわりに

以上のように、本稿は本動詞「よこす」と「～てよこす」の使用実態を調査し、本動詞「よこす」の特性を踏まえ、「～てよこす」の意味・用法を記述した。そして、「～てくる」、「～てくれる」との比較から「～てよこす」には3つの用法があることを指摘し、それぞれの評価的意味の現れ方について分析した。「～てよこす」のぞんざいな印象の正体は、本動詞「よこす」の語彙的特性であり、2者間の距離が前提の「到着」用法の場合は文脈により中立的な古い言い方という印象にもなるが、多くの場合、「～てよこす」は非恩恵を表すのである。

〈埼玉大学大学院生・日本学術振興会特別研究員DC〉

### 謝辞

本稿は、2021年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム（2021年11月13日～14日、オンライン開催）での発表に加筆修正を加えたものです。会期中やその他の機会にご助言をくださった方々に御礼を申し上げます。また、本稿を成すにあたり、大変貴重なご意見、ご指摘を賜りました査読者の先生方、指導教官である劉志偉先生にも心より感謝を申し上げます。なお、本研究はJSPS科研費JP21J20205の助成を受けています。

### 注

- [注1] …… 中納言 ver.2.4.5を使用し、以下の通り検索した。【～てよこす】キー：「指定しない」、後方共起1 キーから1語：語彙素「て」、後方共起2 キーから2語：語彙素「寄越す」、【本動詞「よこす」】キー：「指定しない」、後方共起1 キーから1語：語彙素読み「ヨコス」
- [注2] …… 男性のくだけた会話では、モノの受け渡しに「よこす」が用いられる。次の作例は、権利の要求でないため、横柄というほどではないが「食べる」に対する「食う」のような粗野な印象が生じる。  
・それ、こっちによこしてみな。修理してやるから。 (作例)
- [注3] …… 本稿では「恩恵」を「好ましいこと（感謝・満足）」という意味、「非恩恵」を「好ましくないこと（迷惑・不満）」という意味で用いる。
- [注4] …… 「よこす」の受渡用法のぞんざいな印象（不遜／横柄／粗野）が影響し、別空間からの到着を表す中立的な「～てよこす」の使用が敬遠され、「～てく

る」にシフトしている可能性がある。「よこす」および「～てよこす」の各用法の派生関係や通時的变化の検証は今後の課題とする。

---

### 参考文献

- 李延玉（2010）「補助動詞構文の文法化の初期段階の設定について」『甲南女子大学研究紀要』46, pp.55-61. 甲南女子大学
- 佐藤琢三（1993）「三項動詞の語彙的対応」『言語学論叢』12, pp.1-14. 筑波大学一般応用言語学研究室
- 日高水穂（1997）「授与動詞の体系変化の地域差—東日本方言の対照から」『国語学』190, pp.24-35. 国語学会
- 日高水穂（2007）『授与動詞の対照方言学的研究』ひつじ書房

---

### 使用コーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』データバージョン2021.3.  
(検索アプリケーション『中納言』使用, 2021年6月12日検索)

---